

学校教育目標	大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子 ○自ら問題を見つけ、進んで解決しようとする子を育てます(知) ○自分も友達も大好きな、やさしい心をもつ子を育てます(徳) ○心と体を鍛え、自分や人の命を大切にすることを育てます(体) ○大門のまちを愛し、学校やまちのために協力して働く子を育てます(公) ○多様性を尊重し、持続可能な社会の実現に向けて行動する子を育てます(開)			
	創立 51 周年 児童生徒数: 527 人	学校長 大久保作織 主な関係校: 瀬谷中学校 瀬谷小学校 上瀬谷小学校	副校長 丹野悦子	2 学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 4

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	瀬谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分自身を高めていく力	瀬谷中学校 瀬谷小学校 上瀬谷小学校 大門小学校	人との関わりの中で、多様性を認め合い、自らを高められる 児童・生徒 ・瀬谷中ブロックの子ども像実現に向けた、小中一貫教育カリキュラムマネジメント ・推進委員会の開催のもと、各部会の組織的な運営と連携 ・学校運営協議会を設置し、地域とともに児童生徒を育てていく体制づくり

中期取組目標	○子どもが生き生きと豊かに学ぶ、笑顔あふれる学校を創ります。 ・「楽しい」「分かる」「できた」を大切にする授業づくりを進め、子どもが学び合いながら自らの学力を向上させていくようにします。 ・一人ひとりが自己有用感をもち、多様性を認め合いながら、楽しく学校生活が送れるようにします。 ・健康な心身をつくるための生活習慣の形成や仲間づくりを進めます。 ・家庭・地域とのつながりを通して、持続可能な社会を築く一員としての視点(SDGs)に目を向けられるようにします。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
<b>知</b> 生きてはたらく知 担当 研究推進部	①人とのかかわりの中で、課題を発見し、仲間を認め合える児童の育成を目指し、昨年度に引き続き話し合い活動を大切にした授業づくりを推進する。②3年生算数少人数、一部教科担任制や専科担当によって指導・評価につながる児童の多面的な見取りを行う。③学習習慣を身に付け、自らの学びを調整する自主学習を進める。
<b>徳</b> 豊かな心 担当 人権福祉交流部	①道徳の研究推進校として、児童の実態、行事や各教科等との関連を大切にした道徳科の授業改善を学校全体で進めていく。②人権・福祉教育、運動会等の行事、ペア学年活動、普段の学習を通して、他者の思いを想像する力の育成と自己有用感を高める。③児童を育成する基盤となる教職員の人権意識を、研修などを通して磨き、高める。④学校UD化を図っていく。
<b>体</b> 健やかな体 担当 体育部	①児童委員会の取組を進め、休み時間の活動を充実させ、体力の向上を図る。また、学校保健委員会の活動を通じ、健康について考えられるようにする。②スポーツクラブNASとの連携を行い、水泳学習の充実を図る。③元気がかびか週間の取組を工夫し、家庭との連携を深め、児童がより良い生活習慣を身に付けられるようにする。④栄養教諭、養護教諭と連携した健康・保健授業の拡充を行う。
<b>公開</b> 未来を開く志・地域連携 担当 ESD部	①ESD部会や大門フェスティバル実行委員、生活科・総合部を中心に、生活科及び総合的な学習のカリキュラム作りを推進し、自ら課題解決をめざす子どもを育成する。②年度の早い段階で研修を行い、地域と結びついた「材」を決める。また、年間指導計画の汎用例を活用し、持続的に地域の方と結び付けるようにする。
<b>いじめへの対応</b> 担当 児童支援部	①発達支持的な児童指導について全職員の理解を深め、子どもたちにとって安心できる学校環境づくりを進める。②いじめ防止基本方針を確実に職員で共有し、いじめ防止対策委員会やケース会議等を必要に応じて行う。③チームでの事案対応を徹底し、様々な立場の意見を尊重しながら児童指導を行う。
<b>人材育成・組織運営(働き方)</b> 担当 教務部	①「豊かな心の育成推進校」として、学年ブロックがチームとなった共同研究を進める。②会議の精選を行い、学校教育目標実現に向け、主幹教諭・学年主任を中心としたチーム力を高める。③ICT環境の活用を進め、学校・家庭・地域とのスムーズな情報共有を行う。
<b>特別支援教育・児童理解</b> 担当 児童支援部	①児童と一緒にスタンダードの作成を進める。②SC/SSWと連携し、子どもたちの安心できる環境づくりに向け、必要に応じて関係諸機関とつながるように調整をしていく。③登校支援・学習支援を兼ねた「子ども学習室」の運営を行い、子どもたちにとって安心できる場所の1つとなるようにしていく。
<b>安全教育・管理</b> 担当 安全部	①昨年度改善を行った避難訓練の方法や昨年度の課題についてその都度検証しながら、更に実践的かつ児童の安全確保が確かなものとなるようにしていく。②子どもたちにとって安全、安心な学校づくりのために、引き続き職員安全研修や休み時間の校内巡視を行っていく。③安全強化WEEKの朝や下校時の見守りを全職員が行うようにすることで、児童のより安全な登下校指導につなげていく。
<b>a14</b> 担当	c9
<b>a15</b> 担当	c10

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子
○自ら問題を見つけ、進んで解決しようとする子を育てます(知)
○自分も友達も大好きな、やさしい心をもつ子を育てます(徳)
○心と体を鍛え、自分や人の命を大切にすることを育てます(体)
○大門のまちを愛し、学校やまちのために協力して働く子を育てます(公)
○多様性を尊重し、持続可能な社会の実現に向けて行動する子を育てます(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分自身を高めていく力

具体化した資質・能力

折り合う力 主体的な学び 多様性を尊重しようとする態度

中期取組目標

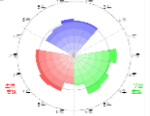
○子どもが生き生きと豊かに学ぶ、笑顔あふれる学校を創ります。
・「楽しい」「分かる」「できた」を大切にする授業づくりを進め、子どもが学び合いながら自らの学力を向上させていこうとします。
・一人ひとりが自己有用感を持ち、多様性を認め合いながら、楽しく学校生活が送れるようにします。
・健康な心身をつくるための生活習慣の形成や仲間づくりを進めます。
・家庭・地域とのつながりを通して、持続可能な社会を築く一員としての視点(SDGs)に目を向けられるようにします。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きてはたらく知) and 具体的取組 (1)人のかかわりの中で、課題を発見し、仲間を認め合える児童の育成を目指す...

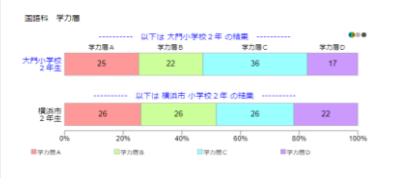
学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
6年生は若干横浜市平均を下回っているものの、概ね横浜市の平均的な学力である。生活意識及び学習意識においても、概ね市平均に近



(2)学年ごとの学力層の分布
学力層の分布について、どの学年も横浜市平均よりC層が多くみられる。そのため理解をより深める指導形態や授業づくりが求められる。456年生で行われる一部教科担任制や、算数少人数指導が有効なものとなり、それぞれの学力層の児童の力を伸ばすことができるようにしたい。

(3)経年変化の状況と学力向上に関わるこれまでの学校の取組状況
令和6年度は、令和5年度と比べて、学習・生活意識は、上昇傾向にあると言える。学力に関しても、全体的にやや上昇傾向にある。自主学習を推奨したり、話し合い活動に焦点をあてた重点研究の成果とも考えられる。生活学習意識の高さが学力に結びついていない学年もある。学力向上のアプローチの手段は、要因を探り、それぞれの学年に適したものにしていかなければならないと考える。



今年度の目標

人のかかわりの中で、課題を発見し、仲間を認め合える子の育成
～話し合い活動を通して互いの考えの良さを理解し自分の考えを発信する子～

目標を実現するための具体的行動プラン

児童に必要な資質・能力として「発信する力」「受け止める力」「課題を発見する力」を取り上げ、その中でも話し合い活動を通して、主体的に学ぶ子ども姿をめざしていく。
・豊かな心推進校として、道徳の授業づくりを研究していく。
・理論研究会を通して、道徳的価値にせまる授業づくりについて講師の話を聞く。
・低・中・高個別のブロックでの授業についての指導案検討を重ね、授業研究を進める。講師を招いた授業研究会では全体で授業についての考察や道徳の授業づくりについて学びを深める機会とし、年間を通して道徳の授業力を高めていく。
・3年生は算数少人数、4、5、6年生は社会、理科、図工を教科担任制にし、音楽と家庭科を専科担任にすることで、学年として児童を多面的に見ていく。
・家庭学習として自主学習(大スタ)を取り入れることで、児童の自主的な学びをうながしていく。

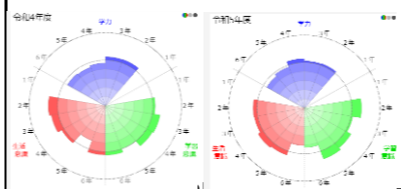
上半期
下半期

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心) and 具体的取組 (1)道徳の研究推進校として、児童の実態、行事や各教科等との関連を大切に...

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態
令和5年度 全児童生活意識 自己意識
令和4年度と令和5年度を比較すると、今年度の6年生の結果が横浜市の平均より低い。他の学年は令和4年度より令和5年度には向上傾向にある。



丸となってイベント活動を盛り上げていく中で、自分の存在や仲間と一体になって活動することの楽しさ、問題を解決していく面白さを体感することで、自分自身の存在の意義や価値などに気づき、自己有用感や自尊感情の高まりが向上傾向になった。

(2)これまでの学校の取組状況
・人権学習や福祉交流などの人権・福祉教育、運動会、大門フェスティバル等の行事や日常の学習を通して、多様性を認め、他者の思いを想像する力の育成を図る。
・運動会、大門フェスティバルなどの行事や日常の学習を意図的に計画し、友達とともに一生懸命取り組み、自分たちでできた経験をし、思い通りに行かなくてもやり遂げようとする機会を多くもつことで、自尊感情・自己有用感の育成を図る。
・活動の軌跡を可視化するような掲示物の充実。
・学校のUD化の推進する。

今年度の目標

「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校をめざして
～自尊感情を育て、自分も他の人も大切にする児童の育成～

目標を実現するための具体的行動プラン

・行事等や教科との横断的に関連付けた年間活動計画を立て、道徳科の授業を全クラス年一回以上公開する。
・年間数回、講師を招聘し、教材研究や授業改善し、児童が本音で語り合えるような道徳科の授業向上をめざす。
・外部講師による教職員UD研修を行う。
・児童が安心・安全に日常生活や学習に取り組めることができるようにUD化を図る。
・運動会、ペア学年、縦割り活動による他者理解を図る。
・YP結果を受けての職員による研修を行い、学級指導に生かす。
・人権・福祉掲示板の充実を図る。

上半期
下半期

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体) and 具体的取組 (1)児童委員会の取組を進め、休み時間の活動を充実させ、体力の向上を図る...

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
・令和4年度と令和5年度を比較すると、高学年は若干の向上が見られるが、中学年は低下している様子が見られる。
・生活調査の結果から、どの学年も8時間以上寝ている児童が多い。
・運動部へ所属している児童は高学年になるほど多い。
・休み時間にはおにごっこや遊具、ボール遊びなどで外遊びを意図的に行う児童が多い。
・テレビの視聴時間やゲームの利用時間はどの学年も市の平均よりも長くなっている。

(2)これまでの学校の取組状況
・「元氣びかびか週間」を活用し、生活習慣を意図的に改善できるよう、家庭との連携を図っている。
・体育委員が遊具や鉄棒、なわとびなどの色々な動きを紹介し、運動意欲の向上につなげている。
・スポーツクラブNAS瀬谷施設を利用した水泳学習に取り組んでいる。

今年度の目標

健康な心身をつくるために自分自身の生活習慣を振り返り、実践できるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

・「元氣びかびか週間」での家庭・保護者との協力を行う。
・体育委員会を中心とした、休み時間を使った運動遊びの紹介を行う。
・スポーツクラブNAS瀬谷施設を利用した水泳学習を行い、運動への興味を高める。
・各運動領域において、運動の特性を十分楽しみ、「自分自身を高めていく力」を身に付けられるように、段階的に学習をしたり、課題発見や課題解決ができるようにする。
・保健領域では、養護教諭、学校栄養教諭との連携、また道徳、特別活動、行事などの活動とも関連させて、運動や食事、睡眠などの生活週間を整える学習をする。

上半期
下半期